

# 教員・学生・企業が考える「大学で育成すべき資質」と キャリア教育の成果に関する分析

中 川 正  
川 島 一 晃  
後 藤 綾 文

三重大学共通教育センター  
大学教育研究－三重大学授業研究交流誌－  
第 22 号 別 冊  
2 0 1 4 年 発 行

# 教員・学生・企業が考える「大学で育成すべき資質」と キャリア教育の成果に関する分析

中川 正\*・川島 一晃\*\*・後藤 綾文\*\*

## 1. 目的

三重大学は、平成 24 年度～26 年度文部科学省補助金事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、中部圏 23 大学間の連携をはかりつつ、人材育成に関する地域・産業界との対話を進めながら、教育改善の取組を行っている。

三重大学は、教育目標として、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、および総合力としての「生きる力」からなる「4 つの力」の育成を掲げているが、その教育目標に沿った地域・産業界へのニーズ調査は行われていない。本事業の一環として、「4 つの力」の項目に沿って、三重県・愛知県の企業に対して、卒業生に求める資質に関する調査を行うとともに、同じ資質項目に従って、教員が育成を目指す資質、新入生が成長を目指す資質について、アンケート調査を行った。

また、アンケート結果を踏まえて、三重大学の共通教育における初年次教育やキャリア教育の成果に関する分析を行い、三重大学における教育理念を中核に据えながら、教育改善の方向性を検討する。

## 2. 「育成すべき資質」の調査方法

### 2-1 「4 つの力」の下位項目を問う内容

三重大学における「4 つの力」の下位要素の定義を重視しつつ、三重キャリア連携会議における意見交換をもとに、以下の修正を施した。まず、「情報受発信力」を「情報発信力」、「情報受信力」、「プレゼンテーション力」に分割した。次に、「討論・対話力」を「討論力」と「対話力」に分割した。第 3 に、「指導力・協調性」を「指導力」と「協調性」に分割した。第 4 に、「社会人としての態度」を「社会人としての態度・マナー」に修正した。第 5 に、「生きる力」に関しては、多様な解釈を許容するので削除し、「行動力」を加えた。

### 2-2 回答の方法

企業には、「総合職」に求める力、「専門・技術職」に求める力それぞれ上位 5 つの記入を求めた。教員には、学生に必要な能力として、「教養教育における場合」と「専門教育における場合」それぞれ上位 5 つの記入を求めた。学生には、2013 年度前期「4 つのカスタートアップセミナー」受講生に、「三重大学を卒業する時点で獲得したい力」と「共通教育で獲得したい力」それぞれ上位 5 つの記入を求めた。

### 2-3 実施方法と回答率

企業には、三重キャリア連携会議の協力を得て、2013 年 2 月～3 月に、三重県及び愛知県に立地する 2,053 社にアンケートを実施し、530 社から回答を得た。その内訳は、第一次産業（農・林・漁業）5 社、第二次産業 237 社（建設業 118 社、製造業 119 社）、第三次産業 288 社（電気・ガス・水道業 7 社、情報通信業 10 社、運輸・倉庫業 26 社、卸売・小売業 81 社、金融・保険業 6 社、不動産・物品賃貸業 23 社、宿泊・飲食業 8 社、教育・学習支援業 2 社、医療・福祉 22 社、サービス業 55 社、その他 48 社）であった。

教員には、2013 年 2 月～4 月に、562 名に調査票を配布し、272 名から回答を得た。回答率は 48%であった。内訳は、人文学部 22 名（回答率 30%）、教育学部 37 名（40%）、医学部医学科 73 名（43%）、医学部看護学科 10 名（31%）、工学部 53 名（45%）、生物資源学部 73 名（70%）、その他・不明 4 名であった。

学生に対しては、2013 年 4 月～5 月に「4 つのカスタートアップセミナー」受講生 1,403 名に調査票を配布し、1,176 名から回答を得た。回答率は 84%であった。内訳は、人文学部 157 名（53%）、教育学部 187 名（86%）、医学部医学科 115 名（92%）、医学部看護学科 85 名（94%）、工学部 329 名（79%）、生物資源学部 238 名（69%）であった。

\*人文学部

\*\*学生総合支援センター

### 3. 「育成すべき資質」アンケート集計結果

企業が求める資質、教員が育成を目指す資質、および学生が身につけたい資質に関する集計結果を、表1に示した。

企業が求める資質として、総合職と専門・技術職を問わず、モチベーション、主体的学習力、問題解決力、協調性、社会人としての態度、行動力が上位を占めているが、このいずれの資質も、総合職において、求められる度合いが相対的に高い。専門・技術職においては、専門的知識・技術を求める企業が56.2%と最も高く、専門的な知識や技術

を前提としたうえで、他の資質を求めていることがうかがえる。

企業の回答からは、独創性や批判力やプレゼンテーション技術よりも、対面的コミュニケーションを行い、自ら学びつつ問題解決の方策を見出し、実行できる人材を求める姿勢が浮かび上がってくる。「考える力」では、論理的思考力や批判的思考力よりも問題解決力を、「コミュニケーション力」では、情報受発信、プレゼンテーション力、討論力よりも、対話力や協調性、社会人としての態度・マナーを重視する企業の割合が高い。

表1 企業が求める資質、教員が育成を目指す資質、および学生が身につけたい資質に関する集計結果(2013年)

「4つの力」に関連する資質		企業		教員		学生	
		総合職で 求められる力 (%)	専門技術 職で求め られる力 (%)	教養教育 で育成し たい資質 (%)	専門教育 で育成し たい資質 (%)	共通教育 で身につ けたい力 (%)	卒業まで に身につ けたい力 (%)
感じ る 力	1:感性	19.4	19.8	23.3	10.8	21.6	20.5
	2:共感	22.1	10.9	14.3	3.6	15.7	10.1
	3:倫理観	24.0	15.7	40.5	16.8	12.4	12.0
	4:モチベーション	44.5	40.6	30.1	22.6	18.9	14.1
	5:主体的学習力	23.2	28.7	58.1	29.0	30.5	24.6
	6:心身の健康に対する意識	13.8	12.1	12.5	3.9	8.6	6.8
考 え る 力	7:幅広い教養	15.1	6.0	65.6	3.6	53.2	28.3
	8:専門的知識・技術	4.5	56.2	2.2	76.0	10.1	51.2
	9:論理的思考力	14.7	16.8	25.4	64.2	21.2	22.2
	10:批判的思考力	7.2	8.1	19.7	29.7	9.4	10.2
	11:課題探求力	12.8	29.6	14.0	48.7	25.6	16.8
	12:問題解決力	35.5	34.9	12.9	55.2	26.8	30.8
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力	13:情報発信力	9.8	10.9	9.0	11.1	13.5	6.0
	14:情報受信力	8.1	6.8	16.5	5.7	11.2	7.4
	15:プレゼンテーション力	7.2	11.7	16.5	30.5	43.4	37.2
	16:討論力	1.7	3.6	12.5	17.2	28.7	20.6
	17:対話力	34.3	18.3	24.0	10.0	37.4	40.3
	18:指導力	19.4	11.7	1.1	6.8	7.4	15.5
	19:協調性	40.2	25.7	18.6	6.8	33.2	18.5
	20:社会人としてのマナー・態度	44.0	27.5	41.9	10.4	21.2	33.4
	21:実践外国語力	2.6	1.7	28.7	15.4	19.4	25.1
22:行動力		39.6	28.1	9.7	17.6	25.8	44.9

教員が育成したい資質としては、共通教育においては「考える力」として分類される幅広い教養、および主体的学習力を中心とした「感じる力」、専門教育においては専門的知識・技術を中心とする「考える力」という傾向が顕著である。「コミュニケーション力」に関しては、共通教育では社会人としての態度・マナーと実践外国語力、専門教育においてはプレゼンテーション力と討論力の育成が重視されている。すなわち、共通教育で幅広い知識に触れさせ、「感じる力」と語学力の基礎を身につけさせたい一方で、専門教育で、専門的な知識と思考力を鍛え、研究や学習の成果を報告し、討論するという能力養成を目指す姿勢を持っている。

教員と企業が共通して重視する資質は、モチベーション、主体的学習力、問題解決力である。共通教育において教員が重視する社会人としてのマナー・態度の養成は企業の要求と合致し、専門教育において教員が重視する専門的な知識・技術の習得は、企業が専門・技術職に求める資質と合致する。

一方で、教員は思考力を、企業は対人コミュニケーション能力と行動力を求めるという意識の差異は顕著である。教員は、特に専門教育において、論理的思考力（64.2%）、課題探求力（48.7%）、批判的思考力（29.7%）の育成を重視している。対照的に、企業が重視する行動力に関する意識は相対的に低く、共通教育では 9.7%、専門教育では 17.6%となっている。また、「コミュニケーション力」の領域において、教員はプレゼンテーション能力の育成を重視するが、企業の優先度が高い協調性や対話力等の育成に対する優先度は低い。

学生が身につけたい資質としては、共通教育で幅広い教養とコミュニケーション力、卒業時までには専門的知識・技術およびコミュニケーション力と行動力というパターンが見られる。企業及び教員と同じ指向性を示す資質は、主体的学習力と問題解決力である。また、企業が専門・技術職に求める専門的知識・技術においても、教員は専門教育において育成をめざし、学生も卒業時までには伸ばしたいと願っている。一方で、教員の優先順位は高くはないが、企業が求めている対人コミュニケーション能力や行動力は、学生自身も伸ばしたい資質となっている。

学生が身につけたいと願う資質に関しては、初年次学生ということもあり、学部ごとに大きな差異は見られなかった（表 2）。教員に関しては、学部により回答率にばらつきがあるために、一般化には慎重でなければならないが、

共通性の高いものを除けば、人文学部における課題探求力、医学部医学科における倫理観、看護学科における感性など、重視する資質に若干の特徴が観察された。

#### 4. 初年次セミナーとキャリア教育の成果

以上のアンケート結果から、専門的知識・技術を育成するという専門教育の役割に関しては、企業、教員、学生において共有されていることが明確である。一方、①企業、教員、学生がともに求める主体的学習力と問題解決力、②企業と教員が求めるモチベーションと社会人としてのマナー・態度、③教員と学生が求める幅広い教養、④企業と学生が求める対話力、協調性、行動力といった資質の育成に関しては、共通教育においてどの程度育成されてきたかに関する現状認識は必要となる。とくに、学問の基盤となり、社会で生きる基礎となる「4つの力」育成を目指して開設された主題Ⅰ「生きる力とキャリア形成」の教育効果については、検証が求められる。

大学教育の質保証の在り方や、大学教育と卒業後に社会から期待される能力との関わりなどに関する中央教育審議会等の議論と並行して、三重大学においては 2009 年度より「4つの力」育成を核とした質保証の根幹となる「4つの力」スタートアップセミナーを開始した<sup>1)</sup>。また、実践と理論を結びつけながら社会で生きていくための資質の育成を目指すキャリア教育の充実を進め、2006 年度に 5 科目 351 名の受講生であったキャリア教育は、2009 年度には 12 科目 943 名の受講生へと成長していた。2010 年度には、この初年次セミナーとキャリア教育科目を主題Ⅰ「生きる力とキャリア形成」として共通教育統合教育科目に位置づけられ、強化が図られた。主題Ⅰに属するキャリア教育科目は、2010 年度には 20 科目、受講生 1,344 名と、ほぼ全学生が受講する体制となり、以後 2011 年度には 25 科目(1,846 名)、2012 年度には 31 科目(1,945 名)、2013 年度には 36 科目(2,093 名)へと順調に成長してきた。すなわち、学問の基盤となる資質育成を目指す初年次セミナーの必修化と、社会で生きるための基礎的資質の育成を目指すキャリア教育科目の実質的な必修化が実現したのである<sup>2)</sup>。

主題Ⅰが、「4つの力」育成において、どのような成果をあげてきたかを明らかにするために、2012 年度の共通教育において実施された授業アンケート結果より、主題 A～H（160 科目 8,289 名）と主題Ⅰ（32 科目 2,154 名）を比較して検討する。

表2 教員が育成を求める資質および学生が身につけたい資質に関する学部別集計結果(2013年)

	「4つの力」に関連する資質	人文学部				教育学部				医学部(医学科)				医学部(看護学科)				工学部				生物資源学部			
		学生 (157件中)		教員 (22件中)		学生 (187件中)		教員 (37件中)		学生 (115件中)		教員 (73件中)		学生 (85件中)		教員 (10件中)		学生 (239件中)		教員 (53件中)		学生 (238件中)		教員 (73件中)	
		に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育	に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育	に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育	に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育	に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育	に共通 教育で 力身	に卒業 までに 力身	成 教 養 し た 教 育 で 資 育	専 門 的 教 育 で 資 育
感じる力	1: 感性	26	22	5	1	40	39	11	4	24	30	16	8	18	12	1	6	76	65	10	3	56	57	18	6
	2: 共感	15	12	4	0	32	15	5	1	25	32	13	5	7	8	0	1	59	24	8	0	39	17	8	1
	3: 倫理観	15	15	4	3	16	12	11	4	19	46	36	23	12	21	3	3	50	22	24	5	32	17	30	5
	4: モチベーション	31	22	5	2	37	25	7	3	21	11	16	17	21	8	1	2	65	52	19	15	34	36	32	20
	5: 主体的学習力	64	33	16	9	59	33	23	18	44	27	35	16	24	26	9	1	83	90	31	12	68	63	43	23
	6: 心身の健康に対する意識	4	2	4	1	12	16	6	1	12	17	8	3	6	20	2	3	34	9	6	0	29	11	7	2
考える力	7: 幅広い教養	80	52	18	3	100	69	26	1	77	18	41	3	58	17	6	0	148	91	35	2	127	71	54	0
	8: 専門的知識・技術	18	60	0	16	23	76	1	32	10	78	1	54	3	61	0	8	31	190	2	41	30	109	2	52
	9: 論理的思考力	38	37	9	16	40	26	9	24	29	29	11	44	19	15	4	4	57	73	14	41	57	65	21	45
	10: 批判的思考力	19	28	6	13	10	16	10	13	8	11	9	20	4	3	1	1	31	34	14	12	33	25	11	22
	11: 課題探求力	50	28	4	15	49	16	7	17	23	19	8	27	26	11	4	1	71	72	9	32	63	43	5	40
	12: 問題解決力	42	47	1	9	51	48	3	18	23	38	13	31	29	25	2	6	72	114	7	39	76	73	7	46
コミュニケーション力	13: 情報発信力	18	8	2	2	25	8	4	1	21	4	5	15	15	5	2	1	33	24	3	6	33	16	7	5
	14: 情報受信力	17	11	3	1	23	8	9	1	11	6	9	7	9	5	2	1	36	31	8	1	28	23	14	5
	15: プレゼンテーション力	72	71	3	6	74	73	8	10	46	18	9	24	37	17	3	2	148	133	8	19	104	102	13	22
	16: 討論力	47	52	0	6	56	35	5	6	26	22	15	13	19	12	1	0	108	56	3	7	63	46	11	15
	17: 対話力	55	62	6	2	67	87	8	8	36	44	23	7	27	39	2	2	153	124	10	4	81	90	16	3
	18: 指導力	5	20	0	1	27	88	0	6	4	9	2	6	5	10	0	0	24	30	1	1	13	13	0	4
	19: 協調性	58	22	4	0	65	35	3	2	32	26	20	7	30	25	1	1	116	64	8	1	70	37	13	8
	20: 社会人としてのマナー・態度	28	59	9	2	41	76	8	2	30	22	44	10	13	34	4	4	76	102	19	2	46	84	28	7
	21: 実践外国語力	22	46	7	1	31	35	12	6	35	25	22	11	24	17	1	1	58	86	19	13	51	74	18	10
	22: 行動力	51	70	0	1	48	90	7	5	18	42	6	12	17	34	1	2	101	151	7	9	47	111	4	16

まず、「4つの力」の上位項目について、該当する力が「成長したと思う」に対して、0「あてはまらない」から4「あてはまる」という5段階の評価に対して、すべての領域において、主題Ⅰが高い値を示した（表3）。特に、「コミュニケーション力」においては、主題A～Hでは1.60であるのに対して、主題Ⅰでは2.60となっている。主題Ⅰにおいては、バランスよく「4つの力」が育成されている状況がうかがえる。

表3 共通教育授業を通して成長したと思う「4つの力」  
(2012年度)

	主題A～H	主題Ⅰ
感じる力	2.16	2.55
考える力	2.37	2.67
コミュニケーション力	1.60	2.60
生きる力	2.05	2.53

0「あてはまらない」 1「あまりあてはまらない」  
2「どちらともいえない」 3「ややあてはまる」  
4「あてはまる」の平均値

「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」の下位項目17領域に関しては、「この授業を通して成長したと思えるものを選び、別紙マークシート用紙におけるその番号のマーク欄をマークしてください。」という複数回答の質問に対して、選択した受講生の割合を示した。図1は、それを「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」の項目別に図示したものである。

主題A～Hにおいては、幅広い教養および専門的知識・技術、倫理観、心身の健康に対する意識において、選択率が高いのに対して、主題Ⅰではその他の領域が高く、役割分担がなされていることを読み取ることができる。

主題Ⅰは、モチベーション、主体的学習力、対話力、協調性といった、企業が求める資質のみならず、教員が重視する論理的思考力、批判的思考力、課題探求力、問題解決力といった「考える力」の育成においても、効果があることがうかがえる。すなわち、単に産業界のニーズに対応するばかりではなく、教員が育成を目指す資質を補完し、学生が目指す成長をも助ける機能を果たしてきたと考えられる。初年次教育とキャリア教育は、三重大の教育目標である「4つの力」をバランスよく成長させるうえで、重要な教育改善の役割を担ってきた。

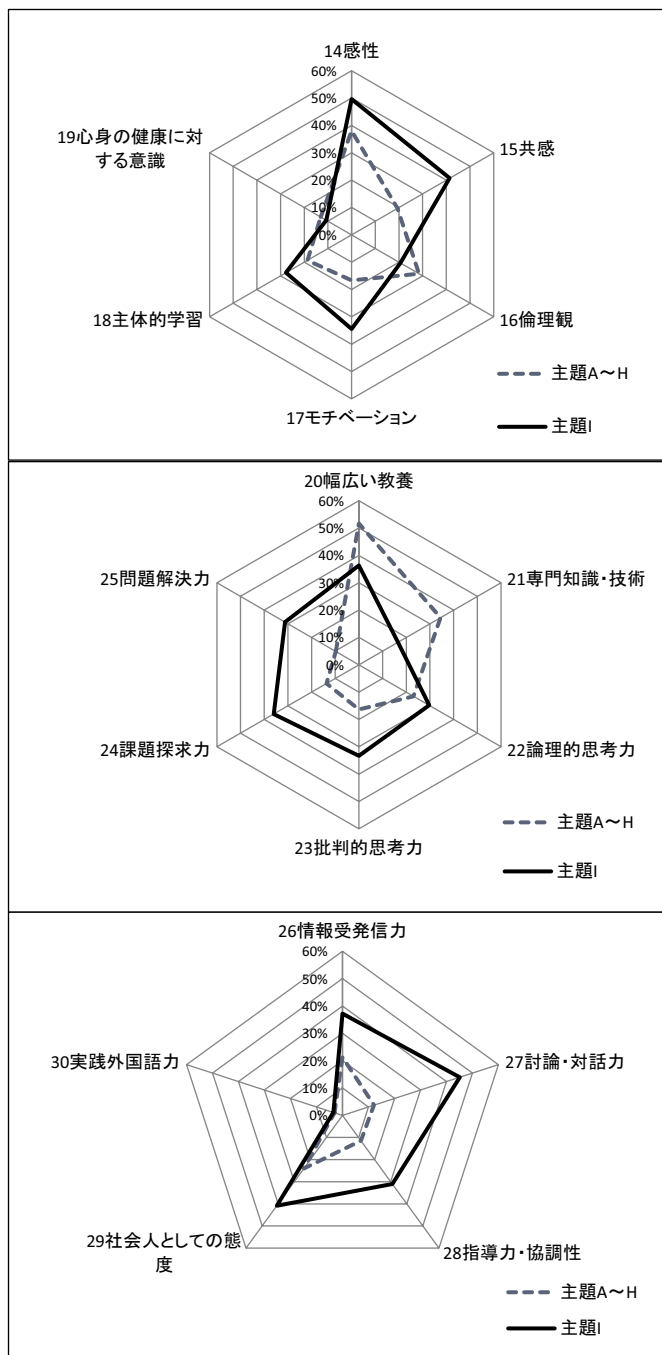


図1 共通教育授業を通して学生が成長したと思う資質(2012年度)

授業アンケートにおいて「成長したと思える資質」をチェックした学生の割合

## 5. まとめと提言

企業、教員、学生への育成したい資質に関するアンケートを通して、企業、教員、学生がともに求める主体的学習力と問題解決力、企業と教員が求めるモチベーションと社会人としてのマナー・態度、教員と学生が求める幅広い教養、企業と学生が求める対話力、協調性、行動力という傾向が明らかになった。また、これらの資質をバランスよく成長させるうえで、主題Ⅰに属する初年次セミナーとキャリア教育が重要な役割を果たしていることが明確となった。

2014年度に教養教育機構が発足し、新しい教養教育カリキュラムの整備が進められている。教養教育改革は、三重大の教育理念とその理念の実現のために推進されてきた教育改革の実績を踏まえて進められる必要がある。

2013年12月教養教育機構設置準備室による「新しい教養教育のための組織とカリキュラム概要－提案－」においては、主題Ⅰに属していた「4つの力」スタートアップセミナーは、必修科目として新しいプログラムの中に明確に位置づけられている。一方で、キャリア教育は、比較的自由に選択できる「教養統合科目」からはずれ、「教養基盤科目」とされながら、全学的な必修の枠を持たない「目的別カリキュラム」に位置づけられている。知識・理解に重点を置いた科目の履修が卒業要件とされる中で、キャリア教育科目を卒業単位として取得できない学生を生む制度とするならば、企業や学生が重視する主体的学習力やコミュニケーション能力の育成ばかりではなく、教員が目指す問題解決レベルの思考力の育成においても、実績を上げてきた科目の受講機会を奪うこととなる。三重大の教育の質保証に向けて、キャリア教育の履修を促進する制度整備が、社会のニーズに応えるだけでなく、教員が育成を目指し、学生が成長を目指す能力を育む教育に結びつくものと思われる。

## 参考文献

- 1) 中山留美子・長濱文与・中島誠・中西良文・南学(2010) : 大学教育目標の達成を目指す全学的初年次教育の導入, 京都大学高等教育研究, 16, pp.37-48.
- 2) 中川正(2012) : 新入生をいかに大学の学びと生活に適応させるか―三重大学における取組み―, 大学マネジメント, 8-2, pp.2-7.